

キラリ☆ 中野のチカラ

FC中野エスペランサ



中野の希望を背負い 北信越の舞台で戦う

中野市が本拠地の社会人サッカーチーム「FC中野エスペランサ」。悲願の北信越リーグ昇格を果たし、新たな舞台で挑戦を続ける「FC中野エスペランサ」の皆さんにお話を聞きました。

○チームの紹介

18歳から44歳までの22人の選手が在籍しています。全員仕事を持ちながらサッカーをしているので、週3回の練習や週末の試合に全員で集まることは難しいですが、メリハリをつけてサッカーに懸命に打ち込んでいます。

○今シーズンの目標

北信越リーグ2部は、計8チームがホームとアウェーで1試合ずつ、9月にかけて計14試合を戦います。上位2チームに入れば、北信越1部に昇格できますが、下位2チームになると、再び県リーグ1部に降格になってしまいます。

○ホーム開幕戦を終えて

4月19日に中野市多目的サッカー

場で行われたホーム開幕戦では、石川県の「FC北陸」と対戦しました。相手に押し込まれる展開が続いて2点を失い、途中出場の和田選手が終盤に1点を返したものの、その後同点ゴールを奪うことはできず、1対2で敗れてしまいました。

○市民の皆さんへ

素晴らしい環境、舞台でサッカーができることに感謝を忘れずに、皆さんに元気を与えられるようなプレーをお見せできればと思いますので、応援よろしくお願いします。

北信越フットボールリーグ2部 FC中野エスペランサ ホームゲーム in 中野市多目的サッカー場

- 5月10日(日) 対 経大FC (午前11時～)
- 6月14日(日) 対 坂井フェニックス (午後1時～)
- 7月5日(日) 対 ASジャミナイロ (午後1時～)
- 7月26日(日) 対 ティヘンズ (午後2時～)

中野市合併10周年記念 広報クイズ



■今月のプレゼント

「晋平・辰之メモリアル めざましライブカントリーツアー2015 in NAKANOのチケット」：4人

問題

中野市音楽親善アンバサダーの麻衣さんが作詞した中野市イメージソングのタイトルは？ 「●●●●●」

クイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、世帯主名を記入の上、今月の広報で参考になった記事、今後知りたい情報などをはがきを書いて、次の宛先までご応募ください。

締め切り 5月22日(金)必着
※当選はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

先月号の答え 中野市は4月で合併何周年でしょうか？
答え・・・「10周年」

383-8614

(住所記載不要)

中野市庶務課
秘書広報係 行

住所・氏名・年齢・
電話番号・世帯主

市民リレー元気の輪

No.10

竹前民雄さん
からのご紹介



○自己紹介

15年ほど前から創作活動を始め、自分で作った物語をもとに、仲間たちと朗読劇や朗読コンサートを行っています。

私が創作した最初の作品の題材は、江戸時代後期の僧侶で歌人や書家としても知られる良寛と、その最期をみつめた弟子の貞心尼です。

良寛の「裏を見せ 表を見せて 散る紅葉」の句に導かれるように、良寛と貞心尼のお墓や足跡を巡る視察に出掛け、いろいろな人との出会いから、2人の生きざまをより深く考える得難いときに恵まれました。今の時代に通じる人間味のある良寛の「あるがままで生きる」という言葉や、女性としてたくましく道



まつもと ゆうこ さん (中町)

を切り開いてきた貞心尼が、晩年の良寛に付き添って最期をみつめた姿に、自分の義父と義母を介護してみつめた経験が重なり、とても勇気づけられたものです。



▲朗読劇の練習をする松本さん

○元気の秘訣

幼稚園児から大学生まで6人の孫がいます。孫たちが泊まりに来るのが楽しみです。本の読み聞かせをしたり、一緒に話をしたりと、孫たちと遊ぶことで元気をもらえます。

また、本を読んで興味を持ったことは現地へ調べに行ってみるなど、いろんな人に話を聞いたり、積極的に関わることによって、元気の秘訣かもしれません。

○おらほの自慢

中野市を訪れたことがある県外の方に「おいしい果物が豊富で、童謡・唱歌の音楽都市でもあるなんて素晴らしいですね」と言われたことがあります。まさにそういったところが自慢だと思います。

池田市長の

わくわくレポート

vol. 21



公園を活用した

ひとづくり・まちづくり

公園には都市公園や近隣公園など多々種類があるが、一般的に公園は住民のレクリエーションの空間となるほか、良好な景観の形成、環境の改善、防災性の向上、生物多様性の確保、豊かな地域づくりに資する交流空間など多様な機能を有する施設といつてよいかと思う。

美しい山に囲まれ自然に親しむ機会に恵まれた私たちがの中野市には、外に向かつて自慢ができる公園や身近に寛げる公園が多々ある。バラまつり会場の一本木公園をはじめとして、北信濃ふるさと森文化公園、高梨館跡公園など、思索に耽る時、気分転換の時、公園は自然と人工美が融合した、身近で心地よい場を提供してくれる。子供たちと広い空間でのびのびと春の柔らかな日差しの中で過ごす親子の風景は、これも地域の魅力と私の目には映る。

昨今、子どもたちが外に出て仲間たちと遊ぶといった風景も見ることが少なくなりました。生活態様の変化と



生活態様の変化と

言ってしまうとそれまでであるが、実は、長い人生のなかで、人と人の関わりは、その人格形成に大きく影響してくる。広い空の下、公園と言う場をみんなで活用することがこれからはますます必要なことだと思う。私自身もサラリーマン時代、親子5人で近所の公園の雑木林の中で、日がな一日、休日を過ごした記憶が今も残っている。そこで、垣間見る初対面の子供たちのふれ合いは、私にとっても世界の広がりを感じさせるものであった。

先月末に浜津ケ池ポート開きの行事に参加させていただいた。浜津ケ池公園を管理する栗林地区、観光協会など地元の方の公園整備にかける熱い思いを聴く機会を得た。公園は住む人、市外から訪ねる人など多くの人々が利用してこそ、その存在価値が高まる。訪ね、利用するたびに思い出も積み重なる。公園を誰もいない広場とするのはもったいない。地域によりそれぞれ公園の持つべき機能も異なるであろう。そこで公園に出掛け、利用し、みんなで公園整備を考える。まちづくりはいろいろな切り口があるが、公園についても、よりよい整備を考えたい。